

論文

カンボジア農村における マイクロファイナンスの影響に関する一研究 —AMKを例に—

頼 藤 瑠 璃 子

要約

貧しい農村の女性にごく少額の事業融資を行うマイクロファイナンスは長い間、貧困削減の有効なツールであると考えられてきた。特に特徴的であるとされてきたのがその貸付手法で、少額を短い間隔で定期的に、さらに少額ずつ返済することで、これまでお金を取り扱ったことのない女性達に経済的な自信をつけさせることが狙いであった。しかし同時に、こういったいわば硬直的な手法が事業の拡大やフレキシブルな運用を妨げ、結果として所得向上につながらないという指摘も存在する。本稿の目的は、異なる背景を持った女性達に違った貸付システムを提供することで生活改善や所得向上の効果が得られるかどうかを確認することにある。そのため、2009年にカンボジアのマイクロファイナンス機関AMKの女性メンバーを対象に、シェムリアップ州で行ったインタビュー結果を用いた。AMKは農村で、季節労働者対象の“End of Term”、定期的な所得を持つメンバー向けの“Installment”、既に一度完済したメンバー向けの“Credit Line”という融資額や返済期間の異なる3つの貸付を行っている。134名の回答を分析したところ、所得向上は約35%のメンバーでしか見られなかったが、資産の購入や食事の皿数などから、全ての世帯において生活の改善を示すと考えられる結果が見られた。これは“End of Term”にも見られるため、貸付システムに変化をつけることで、比較的貧しいと考えられる季節労働者メンバーにも大きな影響をもたらすことができると言えるだろう。

はじめに

バングラデシュのグラミン銀行によって広まったマイクロファイナンス（Microfinance：以下MF）はこれまで、農村における所得向上及び生活改善の有効なツールとしてとして見なされてきた。しかし、しばしば指摘されるように、MFが用いる貸付スキームは硬直的で、全ての借り手にとって最善の方法であると断定することはできない。少額で定期的で小まめな返済といった、いわば「伝統的」なMFのシステムは、お金を扱う経験と自信のない女性たちにとって、達成感と安心感を与える重要な役割を果たしてきたかもしれない。しかし、借り手が繰り返し融資を受け、事業運営に慣れ、より多様で規模の大きいビジネスを行おうとすると、その長所は翻って短所ともなりうる。MFが貧困を削減しないという批判は、こうした硬直性によって生まれるのではないだろうか。MFは本当にポジティブな影響をもたらすのか。また、貸付と返済の手法に問題があるとするならば、多様さを持たせることで目的は達成し得るのか。本稿では、カンボジアのMF機関AMKで行った調査を基に、これらの問いへの回答を試みる。そのため、第1節ではMFのもたらす影響と硬直性について述べる。続く第2節ではカンボジアのMFの状況について確認を行い、第3節では対象MF機関であるAMKと調査対象者の概要を述べる。その後第4節で、インタビュー結果を用いてAMKから借り入れを行っている女性メンバー世帯の経済状況について確認を行い、第5節でAMKのもたらした影響について考察を試みる。

第1節 マイクロファイナンスのもたらす影響とシステムの硬直性

既に広く知られているように、MFは貧困削減を目的として全世界に広まった。2007年から2015年にかけて、MIX Marketに報告されたMF機関（以下MFIs）の数は世界で1,326、総貸付額は約3,248億USドルに上る¹⁾。MFには様々な特徴があり、中でも最もMFをMFたらしめているのはその貸付額であろう。“Micro”の名が示すとおり、その貸付額は一般的に極めて低く²⁾、返済額も小さく設定されている。この僅かな額を返済するのが週に一度行わ

れるミーティングの場で、それらは借り手の居住区域である村の中で行われることが多い。借り手の大半は女性で、そこには、女性は得た利潤を自身のためでなく家族や生活改善のために使うだろうと考えられた、という背景がある。同様の社会的経済的状态を持った他のメンバーたちとグループを組むことも多いが、個人向け貸付も存在する。

MFを広めるきっかけとなったバングラデシュのグラミン銀行（Grameen Bank：以下GB）も当初は事業融資のみを行ってきた。従って当時、マイクロファイナンスは少額融資を意味する「マイクロクレジット」と呼ばれていた。しかし、農村での活動が深まるにつれ、次第にメンバーの子どものための教育ローンや住宅ローン、より多額の企業ローンなど、他の貸付サービスを展開することになる。さらに、融資だけでなく、メンバーの死亡後のための年金サービスなども実施するようになった。貧困層にも多様な金融ニーズがあることが知られた現在では、病気や怪我、死亡などにそなえたマイクロ保険、貯蓄のための口座、出稼ぎ労働者が利用するための送金、携帯電話を使ったモバイルバンキングシステムなどが、様々なMFIsによって提供されている。少額の事業融資としてスタートしたマイクロクレジットは、今や農村において総合的な金融（ファイナンス）サービスを取り扱う、身近なMFIsとして存在しているのである。

基本的にMFの所得向上および生活改善は、融資を用いた自己雇用に基づいている。すなわち、MFを受けて事業を興したり、もともと行っている事業を拡大させた女性たちが、利潤を世帯所得とし、それをもって生活環境の改善や家族の医療や教育水準等を向上させるのである。AMK（2014）は2007年と2012年、自身に所属するメンバーとメンバーでない世帯を対象に比較調査を行い、メンバー世帯の貧困状態が、メンバーでない世帯に比べて緩和したと述べている³⁾。

Khandker（2003）によれば、得られた利潤は非食糧支出の増加の形で現れる。またラマン（2005）によれば、グラミンバンク⁴⁾から融資を受けたメンバー女性は教育・住居・井戸・衛生的なトイレに対する支出を増加させ、

間接的に男性にも雇用を提供していた。さらに、所得の増加によって生じた余剰は、緊急時の経済的ショックに対して有効な緩衝材ともなりうる。世帯内の働き手の病気や事故、天候不順や災害、農産物価格の変動は開発途上国でも起きうることであり、これらの原因で一時的に収入が途絶えたり減少する危険性がある。世帯所得の余剰分を貯蓄とし存在させることによってその場をしのぎ、状況の悪化を防ぐことができるのである。Serajul (2008) は、バングラデシュのNGOであるBRACを例に挙げ、一時的な経済ショックを受けた時にメンバー世帯はそうでない世帯に比べて、貸付という手段で外部から資金を受け取ることができるため、資産の売却や支出の削減をするケースが少ないことを明らかにしている。一方、モーダック・ラザフォード・コリンズ・ラトフェン (2011) は、MFの最大の功績は「貧困世帯の金融生活に信頼性をもたらすというプロセスを大きく前進させたこと⁵⁾」であると述べる。例えば非正規金融の代表である親類や友人からの借り入れの場合、必要な額に満たなかったり、「相手の事情により」返済時期や額に変更が生じるかもしれない。また、近所の金貸しから借りることができたとしても、利子率が不当に高かったり、一定でなかったり、多くの担保を必要とするかもしれない。一方MFはほとんどが無担保で、最初の約束通りの額を定められた期間に返済するだけで済む。また、しばしば指摘されるように利子率の高さも「高利貸し」よりは低くて済む上、大きく変動することはない。MFと関することで自分たちが損をしたり被害をこうむることはないという安心感が、MFを貧困層にとって信頼性の高い金融サービスにしているのである。

こうした研究の一方で、そもそもMFによる融資は貧困を削減しえないという批判も存在する。Dichter (2007) は先進国における金融の歴史を振り返り、金融サービスの貧困層への到達は消費を目的としたものであったと指摘した⁶⁾。それは20世紀のアメリカ、すなわち生産性の向上が需要に応じて市場を供給で満たしたのと同時期である。ここで登場した貧困層向けの「融資」システムはあくまで貧困層に財の購入を可能にするためのものであり、決して生産活動への投資を目的としたものではなかった。MFは常に貧

困削減と同意語であるかのように扱われるが、先進国の経験では、貧困層への融資サービスは経済的な発展の後に誕生するものであって、それ自身が先に立つものではないのである。

さらに、MFが全ての貧困層のニーズを満たしているとは言い難いという主張もある。伊東（2004）は村人とのインフォーマルな会話から、GBの融資を有効に活用できているのは既に毎週の返済金に相当する額の定期収入を持っていたメンバーに多いことを明らかにした。すなわちGBから借り入れられた分はそのまま世帯所得に取って代わり、投資に失敗した際の保障として機能しているのである。同様の指摘はMF全体に対しても行われており、佐藤（2005）はそれら機関の定める、保有資産上限⁷⁾、グループ形成、女性への焦点という3点から、そこに合致した対象者像として「保有資産という点で乏しく、また、消費やフローの所得という点でも低いにも拘らず、一定の流動性を確保できる力を備えている存在」を導き出している。すなわち、MFによって得た機会を満足に活用できるのは、加盟前に定期的なある程度の額を保有しているメンバーである可能性が高い⁸⁾。加えて、モーダック・ラザフォード・コリンズ・ラトフェン（2011）は、MFの提供する貸付スキームより、地元の伝統的金融手法の方が借り手のニーズに合っていた例を紹介している。多くの場合、MFでは最初に期間と金額が定められ、渡された額の運用はメンバーの裁量に委ねられる。しかしその額がメンバーの希望するものと合致しない場合、事業をうまく起こすことができないかもしれない。また、MF機関の全てが貯蓄口座を提供しているわけではなく、貧困層の家庭全てが金庫を保有しているわけでもない。そのため、一度に多額のお金を手にすることで盗難や強盗に会う恐れがある。さらに、貧困層の生活は不安定で、親戚や近所も同様の問題を抱えている。地域のイベントや冠婚葬祭だけでなく、宗教施設への寄付、家族や親族の病気に対する援助など、突然発生する出費も存在する。こうした急な支出や援助が続けば、融資を有効に活用できなくなるだろう。融資額とその頻度はMFも小まめに変えることは難しく、伝統的な金融手法がメンバーの社会的経済的背景に適応している可能

性は十分に高い。また、多くの場合返済は各週またはそれに近い頻度で設定されている。そのためメンバーが最初に大きな事業を行いたくても、利益回収と返済のタイミングから、多額の投資を躊躇うことも考えられる。MFの貸付と返済に関するデザインは、お金を扱ったことのない女性たちのために考えられた、極めてシンプルで、いわば最大公約数的なものであると言えよう。しかし、借り手の経済状況や周囲の環境、行う事業の性質によっては、却って生活改善の妨げとなりうるのではないだろうか。

こうした批判を踏まえてもなお、貧困削減におけるMFの存在を無視することは難しい。すでに述べたように、全世界でMFを提供する銀行や組織の数は年々増え続けている。確かに、活動するMFIsの増加がその目的の達成を必ずしも表すわけではなく、また、MFだけがメンバー世帯の生活改善を後押ししたと言い切ることはできない。貧困層の生活は様々な経済的社会的背景の上に構成されており、全てが複雑に影響しあっている。しかし、MFが貧困削減を目的として誕生した以上、そして、実際に世界中で活動が行われている以上、MFは、自身の使命たる貧困層の所得向上及び生活改善に果たす役割について精査されなければならない。前述したように、可能な限り多くの女性を取り込むために考え出された、いわば硬直的なシステムが、30年の時を経て障害となるのであれば、MF自身も変化していく必要があるのではないだろうか。

第2節 カンボジアのマикроファイナンス

カンボジアは、タイ・ラオス・ベトナムと国境を接する東南アジアの国である。正式な国名は、カンボジア王国（Kingdom of Cambodia）で、現在、ノロドム・シハモニ国王の下立憲君主制を敷いている。人口は、2009年に1,414万人、2015年に約1,517万人で、いずれの年もその約80%が農村に居住していた⁹⁾。首都はプノンペンにあり、国民のほとんどがクメール人で、公用語はクメール語、多くが仏教を信仰する。GDPは2009年に104億、2015年に180億ドルと低所得国に分類され¹⁰⁾、GDPに占める農業の割合は2009年

時点で35.7%、2015年で30.4%、サービス業の占める割合は2009年で41.3%、2014年で42.6%と、この二つの産業が中心である¹¹⁾。一人あたりGDPは2009年の2,334ドルから2015年に3,483ドルに増加した¹²⁾。同時に、国の定める貧困ライン以下の貧困者の割合は、2009年の23.9%から2012年の17.7%まで減少し、一日1.9ドル以下で生活する貧困者や一日3.1ドル以下で生活する貧困層の割合も同じ傾向を見せている¹³⁾。また、人間開発指数は2010年に0.536、2014年では0.555と中位国に位置づけられている¹⁴⁾。

雨森（2010）によれば、カンボジアにおけるMFの取り組みは国連カンボジア暫定統治機構の活動前後である1990年代に遡る。その始まりは海外NGOによるもので、紛争終結とともにカンボジアで活動を開始したMFは、2007年9月には主要12MFIsだけでも約73万人の借り手を抱えるようになった¹⁵⁾。当時の人口が約1,375万人であったことを考えると、国民の約5.3%がMFを利用していたことがわかる¹⁶⁾。また、2014年12月時点で、カンボジアで活動を行っているMFIsは、45機関に上った¹⁷⁾。それらは172万のメンバーに20.3億USドルの総貸付を行い、カンボジア全土に1,172のオフィスと1万9,468名のスタッフを保有している¹⁸⁾。

またカンボジア政府は、大臣令（Prakas）や中央銀行、カンボジア経済財務省を通して、国内におけるMFの活動を規制、監視している。2002年の大臣令では、カンボジア中央銀行への登録のみで活動可能な小規模MFIsと、中央銀行からのライセンスを必要とする大規模MFIsの二つに分けた¹⁹⁾。加えて2007年の大臣令では、中央銀行からの許可があればMFIsが預金業務を行うことも可能にしている²⁰⁾。雨森（2010）によれば、カンボジア政府はこうした支援的な制度を整えることでMFIsをNGOから商業銀行へと転換していこうとしている。また同時に、極貧層を中心に貸付を行うNGOと大手MFIsとの連携を取ることも必要だとしている。このことから、カンボジアにおいて融資を必要とする人々を幅広くサポートする体制が整えられつつあることが窺えるのではないだろうか。

2010年にインドで起きた債務者の自殺をきっかけに、MFは自身のあり方

を問われている。この事件では、債務者達が返済金の厳しい取り立てに耐えかねて起きたという報道がなされた（Microfinance Focus, 2010）。こうした事件を引き起こした背景には、政府のMFに対する対応の遅れがある。すなわち、政府が、新しい存在であるMFの動きについていけず、利用者保護の観点からMFを管理運営できなかったという可能性である。その一方で、カンボジアのMFは、政府の後押しを受けて政府の監視下でフォーマルな姿を持つように進められていると見ることができるだろう。それは同時に、MFが政府の開発政策の一端に組み込まれていることの表れでもある。事実、カンボジア政府が策定した国家戦略開発計画2009-2013には、金融システムの整備のため、そして全国の農村地帯における小規模事業者のニーズを満たすため、カンボジア国立銀行がMFIsを積極的に支援し、またその活動について認可と監視を行うことが盛り込まれている²¹⁾。

第3節 対象マイクロファイナンス機関と調査方法

今回調査を行ったのは、シェムリアップ州で貸付活動を行うカンボジア国内大手MFIsのAMK²²⁾である。シェムリアップ州は世界遺産アンコールワットを有する観光地で、世界中から観光客を招いている。AMKは、もともとカンボジアで活動していたConcern Worldwideという援助団体の貯蓄信用部門から派生した。1997年から1999年にかけて分離したAMKは、2004年にMFIsとして正式に認められ²³⁾、2015年3月にはカンボジア全土で1万2,189村に40万3,883名の借り手を抱える大手MFIsになっている²⁴⁾。AMKの活動目的は、MFの提供を通じて貧困層の生活を改善することで、後述するグループローンでは担保を必要としない。2015年3月段階でメンバーの約83%が女性であった²⁵⁾。しばしばMFIsの特徴を示すものとして高い返済率を取り上げられるが、AMKも同様である。2015年の会計報告書によれば、同年12月の時点で、総貸付額約1億2,832万ドルのうち、返済が危ぶまれるローンの総額は8万5,699ドルで、0.1%にも満たない²⁶⁾。AMKがシェムリアップで活動を始めたのは2005年から2007年の間で、2013年には州内の719

村 1 万 9,595 名に貸付を行ってきた²⁷⁾。他の MFIs がしばしば行うような非経済的なサービスの提供は実施されていないが²⁸⁾、66 名のスタッフが国際労働機関 (International Labor Organization) から金融教育に関する指導を受け、それを借り手達に伝えるという取り組みも試みられている²⁹⁾。

既に述べたように、MF による貸付はいくつかの特徴を持つ。例えば、GB に見られるようなグループを組んでの貸付、毎週の返済、少額貸付、行員による村内訪問など、従来の商業銀行とは異なる様々なシステムが貧困層を相手にした貸付を支えてきたと考えられている。そこで提供される貸付サービスは単一のもので、加盟年数や元々の経済状況などに関らず「少額」で「期間は一年間」、「返済は翌月から」に統一されたものがほとんどであった。しかし AMK は、グループ貸付で 4 種、個人貸付で 3 種、そしてグループでも個人でも借り入れ可能な緊急ローンを 1 種、合計 8 種類の融資サービスを提供している³⁰⁾。そしてこれが、筆者が調査対象に AMK を選んだ理由である。融資の形態によって、またその背景によって、与える影響に違いが出るのかどうか、AMK のメンバーを対象にすることで知ることができるのではないかと考えた。

そのため今回の調査では、グループ貸付のうちの次の 3 種類を対象にしている³¹⁾。一つは“End of Term (以下: EoT)”で、季節的な収入のあるメンバーに貸し出しを行っている。期間は 12 ヶ月を一つのサイクルとし、最初のサイクルで最大 80 万リエル³²⁾、二回目のサイクルで最大 100 万リエルまで貸し出しが可能である。定期的な返済が求められるのは利子率にあたる 3 % のみで、元金はサイクルの終わりかその前までに支払う。土地などの担保は必要としない。この貸付を受けるメンバーは季節収入が基本であるため、他の貸付を受けるメンバーと比べて所得が低い可能性があると考えられる。

二つめは“Installment”で、定期的な所得のあるメンバーを対象としている。最大貸出額は 100 万リエルで、期間は 12 ヶ月、EoT 同様土地などの担保は必要としない。利子率は 2.8 % の減債方式である。この融資をうけるメンバーは、EoT とは逆に比較的所得が高い可能性がある。

三つ目は“Credit line”で、一度目のサイクルを終えたメンバーを対象に貸付を行う。最大融資額は100万リエルで、期間は24ヶ月、土地などの担保は必要としない。利子率は減償式の3%で、元金は期間の終了日までの支払いになる。

調査は2009年10月の一週間、通訳を介したアンケートによるものである。同時に、現地の大学生3名の協力も仰いだ。調査対象はシェムリアップ遺跡群近郊の、いずれも幹線道路を離れた村々に住むAMK利用者である。調査地の選定に関してはまずエリアマネージャーに、それぞれ主たる産業の違う村での調査を希望し、受け入れが可能であると判断された村を訪れた。次に村の担当者の許可を得てミーティングの行われている場所を訪問し、集まっていたメンバー全員にインタビューを依頼した。2009年時点、AMKはシェムリアップ州の499の村で活動を行っており³³⁾、今回の調査では六つの村でのインタビューを試みている。シェムリアップ州全体を分析するためのサンプル数としては不十分ではあるが、アンコールワット遺跡近郊の農村の一部の傾向を示すことができると考えられる。六つの村の内、一つが比較的大きな未舗装道路の近く場所にあり、また一つが徒歩でのみアクセスが可能な村、また二つは湖に近く漁業が盛んな村であった。残りの二つの村においても、自動車でのアクセスが可能な、農業を中心とした村である。シェムリアップは、中心の商業地区を除けばほとんどが農村部であり、今回の調査においても、選定地は一般的なカンボジア農村であると考えられる。

総標本数は134名で、全て女性であった。表1には、インタビュー回答者の年齢を示している。ここからわかるように、20代から40代の比較的若い年齢層が多い。これは、借り手自身が事業のための労働を行う必要があるためだと考えられる。

表1：回答者の年齢

年齢	人数(人)	割合(%)
20代	29	21.8
30代	34	25.6
40代	38	28.6
50代	23	17.3
60代	9	6.8
計	133	100.0

(出所) インタビュー結果より作成

(注) 自分の年齢がわからないメンバーが一人いたため、合計人数は133名である。

表2：回答者の借入期間

期間	人数(人)	割合(%)
一年未満	26	19.4
二年未満	24	17.9
三年未満	18	13.4
四年未満	55	41.0
五年未満	11	8.2
計	134	100.0

(出所) インタビュー結果より作成

表2は、回答者の借入期間を示したものである。3年以上借入れを行っている者が多く、全体の半数近くを占めることがわかる。AMKのシェムリアップでの貸付開始が2005年であること考えると、いわゆる古参のメンバーが多いと考えられる。

表3は、インタビュー回答者の貸付タイプの人数と割合を示したものである。最も多いのは約半数を占めるInstallmentで、既に述べたようにこれは定期的な所得のある世帯を対象にしている。すなわちこの地域では、表3で示されたように複数回借入を行っている可能性があるにも関わらず、Credit LineではなくInstallment利用者が多い。また平均借入額を見ると、EoTが最も低くInstallmentが最も高い。メンバーの半数近くが、大きな資本を必要とする事業に取り組んでいると指摘することもできる。

表3：貸付タイプ

貸付タイプ	人数(人)	割合(%)	平均借入額(リエル/ドル)
EoT	45	33.6	360,784/ 88.4
Installment	63	47.0	634,328/155.4
Credit line	26	19.4	498,437/122.1
計	134	100.0	497,849/122.0

(出所) インタビュー結果より作成

(注) 為替レートはEXCHANGE-RATES.orgより。最終借り入れの時期がメンバーによって異なるため、調査を行った2009年10月26日から29日のものを使用し、平均を算出した。

表4：貸付タイプ別使用目的

貸付タイプ	事業(人)	私的(人)	計(人)
EoT	30	2	32
Installment	54	14	68
Credit Line	14	4	18
計	98	20	118

(出所) インタビュー結果より作成

表4は、貸付タイプ別使用目的を大まかに示したものである³⁴⁾。この表からは、融資の約83%が事業に投資されていることがわかる。これら事業融資の使い道であるが、表5が示すようにEoTでは漁具購入が最も多く、Installmentでは養豚に関するものや肥料の購入・野菜の仕入れ、Credit Lineでは肥料や養豚に関するものの購入が多かった。表3で見たようにEoTは貸付額が最も少ないことから、漁具の価格が低いことや、漁業で短期間に利潤を得ることが容易であることが考えられる。また、私的目的では自転車や家屋、土地の購入をしている例が見られる。すなわち、借入金は資産と交換されているのである。Dichter (2007) はMFが消費に使用されてきた歴史を指摘するが、単なる財の購入ではなく、購入されたものを利用した事業拡大や新規事業の可能性については見逃されている。自転車であれば、より遠くへより多くの生産品を輸送することができるし、遠隔地の新しい情報を獲得することもできる。家屋は、居住だけでなくそこで家庭内手工業の場を提供する。また、土地は持ち主が直接使用するだけでなく、付加価値をつけて

他者に貸し出すこともできる。資産の保有が借入金の消費目的の結果であると単純に述べることはできず、AMK利用者についてはこの指摘は当てはまらない。

表5：直近の貸付の使い道（人数）

EqT(人)	Installment(人)	Credit line(人)
漁業用網(15)	養豚(13)	肥料(6)
野菜(3)	肥料(9)	養豚(3)
投資(3)	野菜(6)	

（出所）インタビュー結果より作成

（注）回答数が多かったものを抜粋

さらに、表6はメンバー女性と配偶者の仕事が同じであるかどうかを示している。特徴的であるのは、EqTとInstallmentが正反対の傾向を示していることで、EqTでは夫婦が共に同じ事業を行い、Installmentではメンバー女性が一人で事業を行っていることが多い。これはInstallmentの対象となる貸付ターゲットの条件からも明らかで、もともと配偶者が安定した収入源となっていたところに、女性が事業を始めたことが考えられる。

同時にこの表では、EqT世帯で9名、Installment世帯で7名、Credit Line世帯で8名と、少なくない数のメンバーが死別していることがわかる。こうした世帯では、メンバー自身に加え、娘や息子と言った他の世帯構成員が収入源として働いていた。

表6：メンバー女性と配偶者の仕事（単位：人）

貸付タイプ	同じ	異なる
EoT	23(65.7%)	12(34.3%)
Installment	16(29.6%)	38(70.4%)
Credit line	10(55.6%)	8(44.4%)
計	49(45.8%)	58(54.2%)

(出所) インタビュー結果より作成

(注) 無職である、未婚である、または夫と死別などの理由から、EoT10名（死別9名、夫無職1名）、Installment9名（死別7名、未婚2名）、Credit Line9名（死別8名、回答なし1名）は除く。

また表7には、融資を受ける前と受けた後の事業内容の変化を表した。この表からは、どの貸付タイプにおいても、同じビジネスが継続して行われていることが見て取れる。しばしばMFの借り手は融資を受けて新しい事業を行うように考えられがちであるが、多くの女性メンバーが元々行っていた内容を引き続き営んでいるのである。しかしCredit Lineの借り手のうち5名が事業を増加させたと答えたことから、女性メンバーが一度返済のサイクルを終え、幅広い所得源を持つために違うビジネスに手を出したことが考えられる。

表7：融資前後の事業内容の変化（単位：人）

貸付タイプ	同じ	異なる	増加	減少
EoT	34(75.6%)	11	1	0
Installment	40(88.9%)	17	3	3
Credit line	17(65.4%)	1	5	1
計	91	29	9	4

(出所) インタビュー結果より作成

(注) 無職であると答えたCredit Line利用者一人を除く。

表8は、世帯の主な収入源となっている事業の中で回答が多かったものを貸付タイプ毎に示した。開発途上国の農村において、所得の安定化を図るために世帯が複数の事業を展開するのは珍しいことではない。保有する農地で米を作りながら自宅で野菜を栽培したり、牛や豚、鶏などの家畜を育てて売

るといった活動は、空間的にも時間的にも実行可能な事業形態である。こうして複数の収入源を確保することで、急激な価格の低下や天候不順による不作、世帯メンバーの健康状態の悪化による経済活動への参加不能に備えることができる。表8からは、EoT利用者において漁業が特に人気であることや、Installment利用者は野菜栽培や販売に従事していること、Credit Line利用者は米の脱穀と販売を行なっていることが分かる。

表8：主な収入源となる事業

EoT(人)	Installment(人)	Credit line(人)
漁業(18)	野菜栽培(11)	農業(6)
米作(7)	野菜販売(8)	米の脱穀(6)
野菜販売(5)	屋根用葉材の作成(5)	米の販売(6)

(出所) インタビュー結果より作成

これらの特徴を踏まえると、EoT利用者はAMKから借り入れを行う前から夫婦そろって漁業に従事しており、融資もその事業のために用いる傾向にあることが分かる。漁業は、釣れた魚をなるべく早く換金する必要があるため、短期間にリターンを得ることのできる事業であると言えるだろう。EoT利用者はもともと安定した所得の無い世帯であるため、こうして小まめに現金収入を確保することで世帯の所得獲得を図っていると考えられる。

またInstallment利用者は配偶者が安定した収入源となる一方で、メンバー女性がかつて行っていた野菜栽培や販売などを行いながらも、AMKからは違う事業のために融資を受けとっている可能性が高い。野菜の栽培は漁業に比べて利潤を得るのに比較的時間がかかるため、Installment世帯のように、ある程度経済状態に余裕があるからこそ可能な事業であると言える。これをさらに補完するのが、家畜の購入である。表5にあるように、Installment利用者の一部は直近の貸付を豚の購入に充てていた。家畜は、自分たちで消費することも可能であるし、種類によっては農業に使えたり、卵や食肉などを採取することができる。さらに、開発途上国において家

畜は貯蓄の別の形で表れでもある。貯蓄口座を持たない人々の間では、金庫ではなく、金銀宝石などの貴重品や家畜の形で所有することは珍しくない。こうして保持された貴重品や家畜は、現金が必要になった時にいつでも売却することができる。家畜は育成には時間がかかるものの、自分たちの都合の良いタイミングで、かつ自由に使用することのできる財産なのである。Installment世帯は複数の事業を同時に行うことで、世帯の経済状況を安定させようとしていることが分かる。

またCredit Line利用者は米に関する事業を行っているが、それ以外にも積極的にビジネスを行おうとする傾向にある。この金融サービスはAMKからの借入れを一度完済した者に提供されるため、二度目の貸付開始時において違う事業へ投資した可能性が考えられる。事実、米の脱穀や販売は一年間に行うことのできる時期が限られており、その意味では季節労働者に近い。従ってより安定的な所得を確保することが必要である。Installment世帯と同様に、Credit Line世帯も収入源の多様化を図ろうとしているのではないだろうか。

第4節 AMKのマイクロファイナンスサービスがもたらす影響

人々がMFに注目する理由の多くは、貧困削減に関するものである。それは、バングラデシュの貧しい農村女性のために始まった、という背景があるために他ならない。当初は懐疑的な目をもって迎えられたMFも、人々が徐々に返済を行い、規模が拡大するにつれ、貧困削減の確固たるツールとしてその地位を確立することとなった。それを支えたのが、MFの貸付スキームであるが、先行研究で述べたように、この画一的な手法がかえってメンバーの経済活動を妨げているという批判がある。本節では、AMKでの調査データを下に、この点について分析を試みる。

既に述べたように、今回のAMKの調査では三種類の貸付サービスを対象にした。EoTは季節労働者が対象で、返済は期日までに行われる。Installmentは定期的な所得があるものを対象とするため、比較的裕福な借り手で

ある可能性がある。また、Credit Line は一度ローンの返済を終えたメンバーが借り入れているため、事業の拡大または多様化が行われていると考えられる。

表 9：所得増加人数

貸付タイプ	人数(人)	割合(%)
EoT	13	29.5
Installment	26	43.3
Credit line	7	29.2
計	46	35.9

(出所) インタビュー結果より作成

(注) 所得を把握していない女性がいたため、有効回答者数はそれぞれEoT44名、Installment60名、Credit Line24名の計128名である。

表 9 は、毎月の所得が増加した借り手の人数を、貸付サービスごとに示したものである。この表から、Installment 利用者の所得増加人数が最も多く、Credit Line が最も低いことがわかる。しかし、どのサービスにおいてもその割合が過半数に届くことはない。

この傾向は、支出に関しても同様である。表10は、毎月の食料にかかる支出を示したものであるが、食料支出が最も増加したのはInstallment、次いでEoTであるものの、その数は大きいとは言えない。確かに、食料支出は世帯内のメンバーの数に左右されるため、その額の多寡が世帯の経済状態を全て表すとは言い難い。事実、表11では主食以外の夕飯のおかずの皿数の増加件数を示しているが、表10と違い、ここではEoTの割合が目立って増加している。夕飯のお皿の数は単に食料支出額を表すだけではなく、その背景には一品を加えるための手間や燃料、設備、適切な知識の保有、自家消費相当分の食料品の増産の可能性が隠れている。したがって夕飯のおかずが一品増えることは、世帯内における生活環境の改善の一端を示す。食料支出額増加が少ないEoTにおいて品数の増加が見られるということは、こうした変化の発生あるいは世帯メンバーの減少が考えられる。特にEoTは季節労働者を対象としているため、食糧を必要とする人数が一時的に減少し、その分

支出が抑えられた可能性もある。しかし逆に、仮に一皿当たりの費用が減少したとする場合、食糧や燃料をより安価で調達できるようになった、すなわち何らかの生活改善が起きたと考える方が自然であろう。

表10：食料品支出増加人数

貸付タイプ	人数(人)	割合(%)
EoT	8	18.2
Installment	13	20.6
Credit line	5	19.2
計	26	19.5

(出所) インタビュー結果より作成

(注) 食料支出額を把握していない女性がいるため、有効回答者数はそれぞれEoT44名、Installment63名、Credit Line26名の計133名である。

表11：夕飯の品数の増加人数

貸付タイプ	人数(人)	割合(%)
EoT	30	66.7
Installment	18	28.6
Credit line	5	19.2
計	53	39.6

(出所) インタビュー結果より作成

(注) 有効回答者数はそれぞれEoT45名、Installment63名、Credit Line26名の計134名である。

表12：食料品以外の支出の増加人数

貸付タイプ	人数(人)	割合(%)
EoT	4	10.5
Installment	11	21.2
Credit line	3	14.3
計	18	16.2

(出所) インタビュー結果より作成

(注) 食料以外の支出額を把握していない女性がいるため、有効回答者数はそれぞれEoT44名、Installment63名、Credit Line26名の計133名である。

表13：貯蓄額増加人数

貸付タイプ	人数(人)	割合(%)
EoT	6	14.0
Installment	22	38.6
Credit line	3	12.5
計	31	25.0

(出所) インタビュー結果より作成

(注) 貯蓄額を把握していない女性がいるため、有効回答者数はそれぞれEoT43名、Installment57名、Credit Line24名の計124名である。

したがって、表12の毎月の食料品以外の支出人数も、表13の毎月の貯蓄額の増加人数もInstallmentが最も多いが、世帯人員数変化の影響を完全に免れることはできない。AMKから貸付を受けることで、世帯の経済状態がどれほど改善されたか、明確な答えを得ることは難しい。

人数に関係なく世帯の経済状態を知るためには、これまでの支出状況と資産の増減を見ることが重要である。表14は、借り入れからこれまでに何か大きな買い物をした人数を示している。ここからは、Installmentにおける割

表14：大きな買い物をした人数

貸付タイプ	人数(人)	割合(%)
EqT	16	35.6
Installment	24	38.1
Credit line	9	34.6
計	49	36.6

(出所) インタビュー結果より作成

(注) 有効回答者数はそれぞれEqT45名、Installment63名、Credit Line26名の計134名である。

表15：資産を購入した人数

貸付タイプ	人数(人)	割合(%)
EqT	34	75.6
Installment	36	57.1
Credit line	14	53.8
計	84	62.7

(出所) インタビュー結果より作成

(注) 有効回答者数はそれぞれEqT45名、Installment63名、Credit Line26名の計134名である。

合が最も高いこと、そして全サービスにおいて3割以上の人々が大きな買い物をしたことがわかる。この中には主に、テレビやラジオ、CDプレイヤーやDVDプレイヤー、携帯電話、バッテリーなどの家電製品や、自転車やバイクといった移動手段が含まれる。融資を受けてから、耐久消費財を購入するためのまとまった額を手にしていたことが窺える。加えて、特にテレビや各種プレイヤーは生活の必需品でなく、娯楽目的に使用されるものである。つまり、融資を受けた人々が経済的な余裕を持ち、生存に必要とする以上の消費を行っていることがわかる。また、表15は、融資を受けてからこれまでに、資産を購入した人数を示している。この資産の中には、土地や牛・豚・鶏・アヒルといった家畜、その他事業に必要な固定資産が含まれる。土地は言うまでもなく、家畜は、肉や労働力の提供、そして経済状態がひっ迫したときに売却可能であるため、重要な役割を担っている。最も資産購入が多いのはEqTで、次いでInstallment、Credit Lineと続く。EqTは毎月の所得・消費・貯蓄の増加人数は少ないが、こうした余剰の出費を行う人数は多い。特に土地や家畜を所有することで、食糧生産に必要な手段を確保し、表11に見られるような食生活の改善につながったのであろう。

また、所得向上と雇用創出は切っても切り離せない関係にある。所得の増加とその周囲への波及効果を目的として、貧困層を対象にした賃金雇用の創出や提供は伝統的に行われてきた。MFは自己雇用を出発点としており、それが世帯内外に広まることは極めて重要である。表16は、家族を雇用してい

る者の人数を示した。この表からは、絶対的な数ではInstallmentが、割合ではCredit lineが最も多く、しかしどの貸付タイプでも過半数を超えていることがわかる。また、表17は家族以外の人員を雇用した人数を示す。この表からは、全体のわずか10%未満でありながらも、世帯構成員以外を雇用するメンバーがいることがわかる。

表16：家族を雇用している人数

貸付タイプ	人数(人)	割合(%)
EoT	31	68.9
Installment	36	57.1
Credit line	20	76.9
計	87	64.9

(出所) インタビュー結果より作成

(注) 有効回答者数はそれぞれEoT45名、Installment63名、Credit Line26名の計134名である。

表17：家族以外を雇用している人数

貸付タイプ	人数(人)	割合(%)
EOT	5	11.1
Installment	4	6.3
Credit line	2	7.7
計	11	8.2

(出所) インタビュー結果より作成

(注) 有効回答者数はそれぞれEoT45名、Installment63名、Credit Line26名の計134名である。

第5節 考察

所得、食料品を含む消費、貯蓄、雇用を見ると、MF借り入れによる正の影響を最も享受しているのはInstallmentであるように見えるが、EoTも夕飯のお皿の数や資産購入の点から、成果を上げているように考えられる。Installmentは定期的な所得を持つ借り手を対象としているため、借り入れの時点で他の債務者に比べて経済的に裕福である可能性が高い。これらの人々が示す結果が最も高いとすれば、MFによる所得向上は、事前の経済状態に大きく左右されることになる。すなわち、貧しい人々に貸し出されて、貧しい人々の生活を改善するのではなく、比較的裕福な人々をより豊かにすることが、MFの意義になるのである。これは、一般に想像されるMFのあり方とは大きくかけ離れている。しかしEoT利用者にも、資産購入と夕飯のおかずの二つの項目において一定の効果が見られた。しばしば指摘されるように、事前に安定した所得を持つ世帯だけでなく、EoTのような世帯でも、MFを用いて貧困から脱却することは可能なのである。むしろ、貧困層

の中でも最も経済状態の悪い可能性がある世帯においてもこうした結果を残したことに、大きな意義が認められるべきであろう。

AMKの多様な貸し付けシステムの提供は同時に、貧困層が様々な金融ニーズを持っていることの現れでもある。従って、今後、それぞれのサービス利用者に対して異なる金融支援を行うことも可能であろう。例えば、比較的生活改善を遂げていると考えられるInstallment利用者については、事業をさらに収益性の高いものにするための経営に関するアドバイスや技術向上の機会を提供したり、貯蓄額が増加したメンバーがいることから貯蓄口座を提供することで、より安全に資金管理が可能になるかもしれない。事業の多角化を試みる傾向にあるCredit Line利用者には、より多額でフレキシブルな融資制度の導入が必要であると考えられる。さらにもっとも経済的に困難な状況にあると考えられるEoT利用者には継続したモニタリング及びCredit Lineへの誘導、そして購入された財の多さから家財保険などが求められる可能性がある。さらに、夫と死別した世帯がどの貸付サービス利用者にも複数名いることから、死亡保険の提供も視野に入れて良いのではないだろうか。一律に融資を行うだけでなく、それぞれの経済的背景に基づいた金融サービスを提供することで、より効率的に事業収益と所得の向上が可能になるのではないだろうか。

さらに今後AMKに求められるのは、メンバー女性達の行っている事業の包括的な把握である。既に見たように、EoTは漁業を、Installemntは養豚を、Credit Lineは米の脱穀や販売を元々行っていたり、新たに投資することが多い。食料品はいずれも生活必需品ではあるものの、こうした事業はメンバー以外の世帯においても行われるため、市場への参入者が増えれば増えるほど価格は下がり、結果として所得向上や事業拡大を難しくする可能性がある。地域の生産者組合に加え、AMKもメンバー世帯内外の行う融資に対して常に注意を払う必要があると考えられる。

結びに

本稿では、AMKの提供する金融サービスがメンバー世帯の経済状態に貢献しているかどうか、またその影響は提供形態によって変化しうるものであるか、を明らかにすることが目的であった。そのため、第1節でMFの貧困削減効果とシステムにおける硬直性について述べた。続く第2節ではカンボジアのMFが、政府の管理の下で盛んに運用されていることも明らかにした。次の第3節では、対象MFIであるAMKと調査対象者の概要を述べ、借り手の半数近くが定期的な収入を得ているものであり、用途の大半が何らかの事業に対して投資されていることを明らかにした。加えて、多くの借り手が元々行ってきた事業に融資を用いていることや、EoT世帯は夫婦で漁業を行う傾向にあること、InstallmentとCredit Line世帯は事業の多角化に積極的であることを明らかにしている。さらに第4節では、借り入れを行った世帯の経済状況について確認をした。所得だけを見た場合全体の35.9%のみが増加したことがわかるが、資産を購入した世帯や家族を雇用した世帯の割合はどのサービスにおいても半数を超える。この資産とは土地や家畜、固定資産を指しており、これらを利用して事業の拡大や生活の改善を測ることができる。また、家族を雇用することで働き手を増やし、ビジネスを発展させることも可能である。すなわち、AMKからの融資は直接的にも間接的にも、メンバー世帯の経済活動を活発化させ生活改善にも影響を与えていると言えるだろう。多くの場合それはInstallmentに顕著であるが、例えば夕飯のおかずの品数や資産の購入、家族以外の者の雇用においてEoTも目立った。EoTはそもそも季節労働者を対象としているため、それら世帯の所得は不安定であることは容易に想像可能である。そのため、EoT世帯はAMKからの借り入れによって最も生活に近い部分で如実に影響を受けているとも言えよう。

先行研究にあるように、MFは貧困層の中でも比較的裕福な世帯においてのみ有効に働きうると考えられがちである。しかし、貸付スキームに変化を加えることでそうでない世帯にも所得向上および生活改善効果をもたらすこ

とができるのである。

また同時に、AMKの貸付サービスは、貧困層の持つ金融ニーズが一様でないことの表れでもある。世帯によって経済的背景は異なり、メンバー女性の労働形態ですら同等ではない。今後、すでに分類された世帯層に、それぞれ適した金融サービスの提供が行われることで、所得向上及び生活改善をより効率的に進めることができると考えられる。

今回調査したシェムリアップ近郊の農村に置いてAMKは、活動を始めて日は浅い。しかし、所得向上および生活改善における効果を確認することが可能であった。加えて、サービス形態、すなわち世帯の事前の経済状況によっては影響の表出する部分が異なることも確認された。基本的なサービスである融資にバリエーションを加えることで、より効果的にその目的を達成することが可能になるのである。

MFは長い間、少額を短い間隔でさらに少額ずつ返済することを特徴としてきた。そこには、お金を取り扱ったことのない女性に返済を習慣づけ、また、少額返済という成功体験を積み重ねさせることで、資金の運営に対して自信をつけさせる狙いがあった。しかし、貧困層の経済事情は世帯によって異なり、また、必要とされる金融サービスも内実は様々である。MFは今後、額の多寡だけでなく、農村に居住する多様な貧困層のため、自身も変化しなくてはならないのではないだろうか。それは、預金や送金、保険と言った金融サービスの提供だけでなく、貸付額に幅を持たせ、返済期間を柔軟にすることも意味する。一様でないシステムの実施はこれまで以上にコストを必要とするものの、よりMFを貧困層の役に立つ存在にするためには避けて通れない課題なのである。

〈参考文献〉

- 雨森孝悦、2010、「東南アジアのマイクロファイナンス、マイクロ保険における営利と非営利」、『日本福祉大学経済論集』、日本福祉大学経済学会、第41号、65-86頁。
- 伊東早苗、2004、「グラミン銀行と貧困緩和」、『マイクロファイナンス読本 オンデマンド版』、明石書店、125-134頁。
- 佐藤寛、2005、「貧困削減と住民組織化」、『開発援助の社会学』、世界思想社、145-167頁。
- モーダック、J、ラザフォード、S、コリンズ、S、ラトフェン、O、2011、「貧困者のポートフォリオ」、『最底辺のポートフォリオ』、みすず書房、5-40頁。
- ラマン、M A、2005、「バングラデシュの貧困緩和におけるマイクロクレジットの役割—ボイラ村（ボグラ県）の調査を通じて—」、『岡山大学大学院文化科学研究科紀要』、第19号、3月、207-223頁。
- AMK. 2013a. “Operational Coverage.” *Annual Report 2013*. AMK. p9.
- AMK, 2014a. “Study Findings -Positive.” Client Change Story 2012. AMK. pp6-8.
- Khandker, Shahidur R. 2003. “Micro-finance and poverty: Evidence using panel data from Bangladesh.” World Bank policy research working paper 2945.
- AMK. 2009. “Annual Report 2009”
<http://www.amkcambodia.com/file-upload/amk-ar-2009-english-142837751118792.pdf>. (October 29, 2016)
- 2013b. “Loan Products”
<http://www.amkcambodia.com/?page=detail&menu1=5&article=5&lg=en>. (May 24, 2015)
- 2014b. “History.” <http://www.amkcambodia.com/?page=detail&menu1=4&article=4&lg=en>. (May 24, 2015).

—— 2015a. “AMK Highlights and Main Ratios”

<http://www.amkcambodia.com/?page=detail&article=575&lg=en>.

(April 24th, 2015)

—— 2015b. “Social Ratings”

<http://amkcambodia.com/file-upload/amk-social-rating-final-report-144887351662018.pdf>

—— 2016. “Annual Report 2015”

<http://amkcambodia.com/file-upload/amk-audited-report-2015-en-146190823954065.pdf>. (December 21, 2016)

Cambodian Microfinance Association. “Members” <http://cma-network.org/drupal/Members>. (February 27, 2015).

Dichter, T. 2007. “A Second Look at Microfinance. The Sequence of Growth and Credit in Economic History” Center for Global Liberty and Prosperity. <http://object.cato.org/sites/cato.org/files/pubs/pdf/dbp1.pdf>. (April 23, 2015) (ディヒター T 頼藤瑠璃子 (訳)、2016、「マイクロファイナンス再考—経済史における信用貸し付けと成長の順序—」、『熊本学園大学経済論集』、第22巻、第3－4合併号岡本恵也教授退職記念号、367-389頁)

Exchange-Rates.org. <http://ja.exchange-rates.org/>. (May 21, 2015).

International Labour Organization. 2015. “1 Page Poster Summary of MF4DW intervention and MFI Profile.”

http://www.ilo.org/wcmsp5/groups/public/---ed_emp/documents/projectdocumentation/wcms_186191.pdf

Microfinance Focus. 2010. “Exclusive: 54 microfinance-related suicides in AP, says SERP Report”

<http://www.microfinancefocus.com/content/exclusive-54-microfinance-related-suicides-ap-says-serp-report>. (April 21, 2012)

MIX Market, 2007, “Cambodia Trend Report 2003-2007.”

- <http://www.themix.org/sites/default/files/Cambodia%20Trend%20Report%202003%20-%202007.pdf>*. (October 14, 2013).
- MIX Market “Funding Structure” *<http://reports.mixmarket.org/funding-structure>*. (May 21, 2015)
- National Bank of Cambodia. 2002. “PRAKAS on Registration and Licensing of Microfinance Institutions”
*http://asiacambodia.info/upload/lawdoc/038_Prakas%20on%20Registration%20and%20Licensing%20of%20Microfinance%20Institution_02_En.pdf**[b0fdb5aaa6559215e7c815facf086316.pdf](http://asiacambodia.info/upload/lawdoc/038_Prakas%20on%20Registration%20and%20Licensing%20of%20Microfinance%20Institution_02_En.pdf)*. (July 29, 2012).
- National Bank of Cambodia. 2007. Prakas on the licensing of Microfinance Deposit Taking Institutions. *http://www.nbc.org.kh/download_files/news_and_events/press_eng/33.pdf*. (July 29, 2012).
- Royal Government of Cambodia. 2010. “National Strategic Development Plan Update 2009-2013.” *<http://www.mop.gov.kh/LinkClick.aspx?fileticket=vrc8mDN4sJM%3d&tabid=206&mid=663>*. (December 5, 2013)
- Serajul, H. 2008. “Does Micro-credit Program in Bangladesh Increase Household’s Ability to Deal with Economic Hardships?”
http://mpa.ub.uni-muenchen.de/6678/1/MPPA_paper_6678.pdf. (December 16, 2013)
- United Nations Development Programme. 2015, “Table 2 Trend in Human Development Index, 1990-2014.” *<http://hdr.undp.org/en/composite/trends>*. (October 27, 2016).
- World Bank. “World Bank Open Data” *<http://data.worldbank.org/>*. (October 27, 2016).

(Endnotes)

- 1) MIX Market, Funding Srtuctureより。
- 2) 例えば今回の調査対象であるAMKでは、最大貸付額を200米ドルから250米ドルに設定している。
- 3) AMK, 2014a. pp6-8.
- 4) Grameen Bank (以下GB) はマイクロファイナンスを広めたとして知られるバングラデシュの銀行。
- 5) モーダック・ラザフォード・コリンズ・ラトフェン、2011、39頁、4－5行目。
- 6) Dichter (2007), p8.
- 7) グラミンバンクはメンバー加盟に際して、土地をまったく持たないか、0.5エーカー以下の土地所有の人々を対象としている。
- 8) これら、「本当に貧しいものに対して融資が届いていない」という批判に答えて、2002年から物乞いを対象とした貸付プログラムもスタートしている。
- 9) UNDP, 2014b.
- 10) World Bank Open Data より。
- 11) Ibid.
- 12) Ibid.
- 13) Ibid.
- 14) 国連開発計画 (United Nations Development Proramme) が採用している指標である。経済、教育、健康の三つの側面から、その国の状況を示すために用いられている。データはUNDP (2015) より。
- 15) MIX Market, 2007, p5.
- 16) World Bank Open Dataより。
- 17) Cambodia Microfinance Association “members”. より。
- 18) 同上。
- 19) National Bank of Cambodia, 2002.

- 20) National Bank of Cambodia. 2007.
- 21) Royal Government of Cambodia. 2010.
- 22) Angkor Mikroheranhvatho (Kampuchea) Co. Ltdの略。
- 23) AMK, 2014b.
- 24) AMK, 2015a.
- 25) Ibid.
- 26) 借り手の死別を除く。2015年12月31日時点での死亡者借入額は約47万ドルであった。データはいずれもAMK 2016より。
- 27) AMK, 2013a.
- 28) AMK. 2015b.
- 29) International Labor Organization. 2015.
- 30) AMK, 2013b.
- 31) 残る一つのローンは都市部居住者のためのものであるため、ここでは対象に含めない。また、これらのローン概要は筆者が調査を行った2009年時点のものであり、現在では違う条件で運営されているものもある。
- 32) EXCHANGE-RATES.org によればおよそ198.56ドル（2015年5月15日現在）であるが、カンボジアでは日常的に1ドルを4,000リエルとして使用している。
- 33) AMK (2009), p13.
- 34) この質問は調査の途中から加えた上、複数回答可であったため、回答数とサンプル数の合計は一致しない。

A Study on Effects of Microfinance in Cambodia Rural Area**-In Case of AMK-****YORIFUJI Ruriko****Abstract**

Microfinance has considered as a useful tool for poverty reduction because it has provided small amount of credit for rural poor women. Lending scheme of microfinance is quite characteristics. Regular deposits are made many times at short intervals. This scheme aimed to empower women who has not handled money before. On the other hand, there are some criticism that such a fixed system prevent women to make their business bigger and earn more income. This paper attempt to confirm that whether it is possible to provide income increasing and improvement of living environment by adopting different credit system to women who has different economical background. To achieve this purpose, the author use survey data. The survey was conducted at Siem Reap province, Cambodia in September 2009. The target of survey was the member of AMK. AMK is a one of the biggest microfinance institutions in Cambodia. It runs 3 types of credit service for rural women. One is “End of Term (EoT)” for seasonal labor. Second is “Installment” for members who has regular income. The third is “Credit Line” for members who has already finished deposit for first cycle. The data was taken by interview with interpreter and 3 local university students. Survey site was decided from discussion with AMK staff. Interview was occurred after village meeting. Sample size is 134. From this survey, however the number of member who increased income has not gotten a majority, the number of member who got asset and who gained dishes for dinner was significant. It shows their living improvement and income increasing.

This trend also was clear for “EoT” member. By providing different deposit system, microfinance can bring positive effect for rural poor women even they are seasonal worker.